せたな町

7343　養父　友里恵

1.　概要と歴史

1.1 地名の由来と歴史

「せたな町」という名前は、旧瀬棚町からとって付けられたもので、アイヌ語「セタルペシュペナイ」（犬の川）が略されて「セタナイ」（犬の沢）となり、それが転訛（てんか）したものである。ちなみに、せたな町が属する「久遠郡」は旧大成町が属していたところから名付けられた。

もともと旧三町とも、赤字を抱え、その赤字を少しでも軽減するために合併という手法をとらざるを得ない状況であった。2000 年頃から始まった「平成の大合併」のブームに乗り、2004 年 12 月に調印、各町議会での関連議案可決を行い、2005 年 9 月 1 日、三町は新設合併した。しかし、合併後一年弱で「財政非常事態宣言」が出され、ますます苦しい台所事情となっている。

表 1　合併以前の 3 町の歴史概要

	瀬棚町	北檜山町	大成町
1880 年代	戸長役場設置(1880 年)		
1890 年代	利別村(現今金町)が分村(1897 年)		
1900 年代	二級町村制施行(瀬棚村)、東瀬棚村(現北檜山町)が分村(1902 年)	瀬棚郡瀬棚村(現瀬棚町)から分村、瀬棚郡東瀬棚村(1902 年)　二級町村制(1906 年)	久遠村に二級町村制施行(1902 年)
1910 年代	一級町村制施行(1919 年)		
1920 年代	町制施行、瀬棚町(1921 年)		貝取澗村に二級町村制施行(1923 年)
1950 年代		町制施行、東瀬棚町(1953 年)　太櫓郡太櫓村(ふとろ)を編入、北檜山町に改称(1955 年)	1955 年 久遠村と貝取澗村が合併し、大成村となる
1960 年代			町制施行、大成町(1966 年)

出典：Wikipedia

1.2 位置と地理

せたな町は北海道の南西部、渡島半島の付け根にあたる檜山支庁管内の北部にある。北緯 42 度 27 分、東経 139 度 51 分に位置し、面積は 638.63km² である。

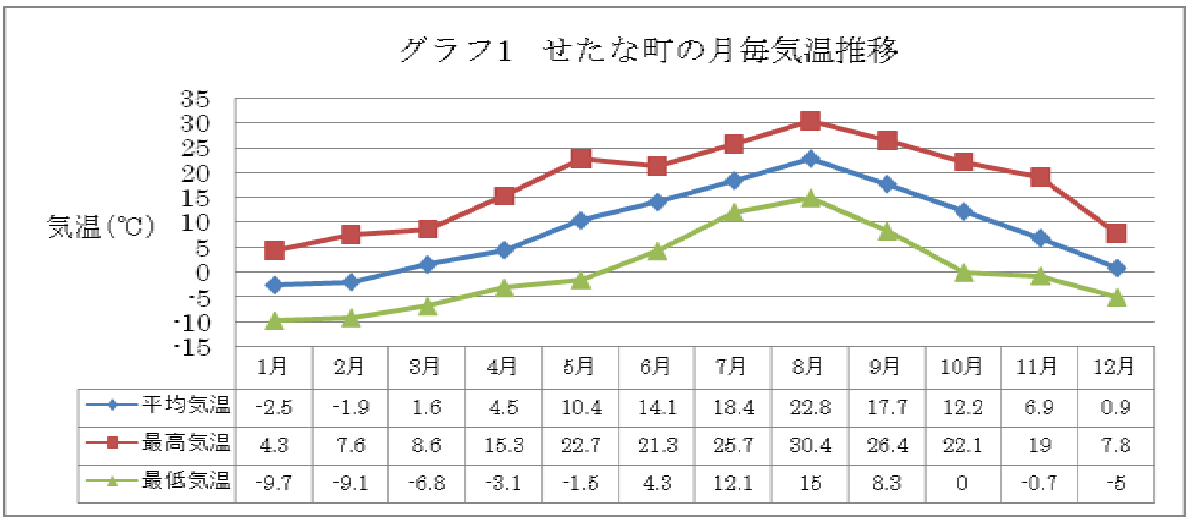
地形は平坦部が少なく、海岸に近づくにしたがって起伏する段丘となり、大半が草地となっている。また、総延長約 77.6km の海岸線は変化に富んだ奇岩、絶壁が多く、狩場茂津多道立自然公園に指定された景勝地である。町の中央を一級河川「後志利別川」が貫流し、日本海に注いでいる。北部は後志支庁との境にある標高 1520mの狩場山を中心とした山岳地帯で、ここに源をもつ 5 河川が日本海に注ぎ、西部一帯の日本海沿岸は地方港湾瀬棚港をはじめ沿岸漁業基地として５漁港があり、小樽札幌方面への国道改良も完成した。また、この山岳地帯が日本海に落ち込むところに茂津多岬がある。また南東部も遊楽部岳を中心とした山岳地帯でもある。西側は日本海に面した急峻な海岸が続き、狩場茂津多道立自然公園に指定されている。また、海岸線沿いに国道 229 号が通っている。道南の中心都市である函館市までは約 120km、札幌市までは約 200km の距離にある。

図 1　せたな町の位置

出典：北海道檜山支庁 HP

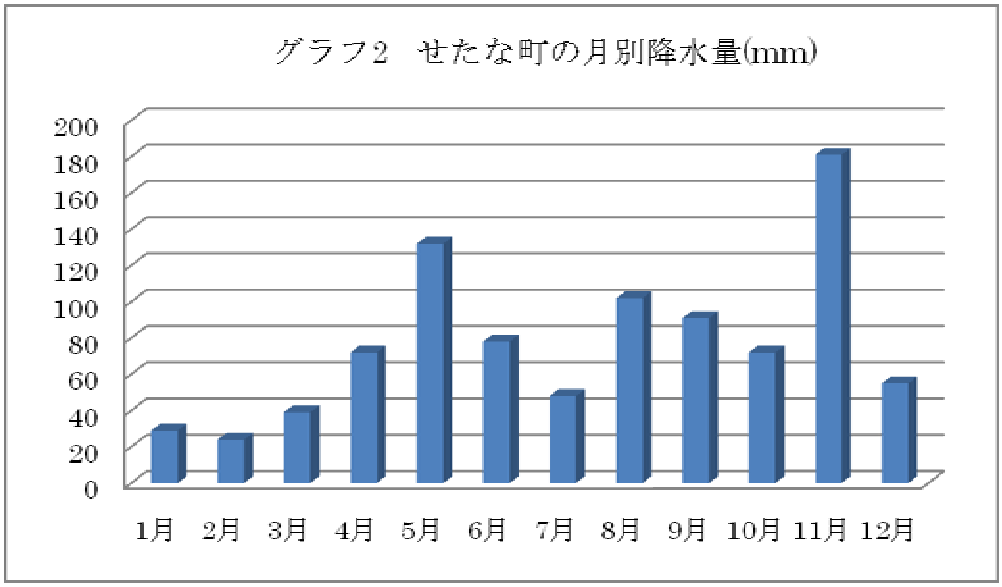
1.3 気候

日本海を北上する対馬暖流の影響を受けるため温暖で日較差も比較的小さく、東北地方に近い気候だ。夏場は最も気温の高くなる 8 月でも 30℃以上となる日が少なく、過ごしやすい気候である。また夏には「やませ」と呼ばれる東風が強く吹きつけるため、6 月頃に気温が下がるのだと思われる。「やませ」は東から吹いてくるので、西岸に位置するせたな町まで雨雲が届かず、そのために 6、7 月に降水量が急減したのではないだろうか。冬は北西の季節風が非常に強く、冷たく乾燥した風が吹き荒れる。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温	-2.5	-1.9	1.6	4.5	10.4	14.1	18.4	22.8	17.7	12.2	6.9	0.9
最高気温	4.3	7.6	8.6	15.3	22.7	21.3	25.7	30.4	26.4	22.1	19	7.8
最低気温	-9.7	-9.1	-6.8	-3.1	-1.5	4.3	12.1	15	8.3	0	-0.7	-5

出典：気象庁 HP

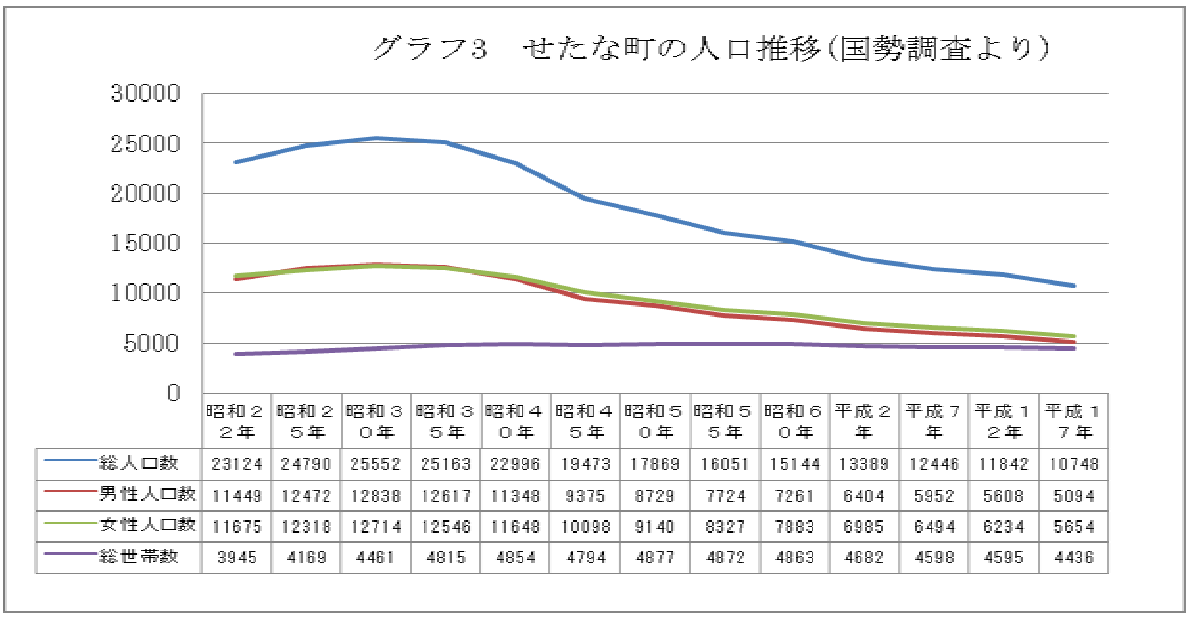


出典：気象庁 HP

1.4 人口・世帯数

せたな町は平成 17 年 9 月 1 日に合併したため、ここでの平成 17 年以前のデータは合併前の各町村の合計で表してある。

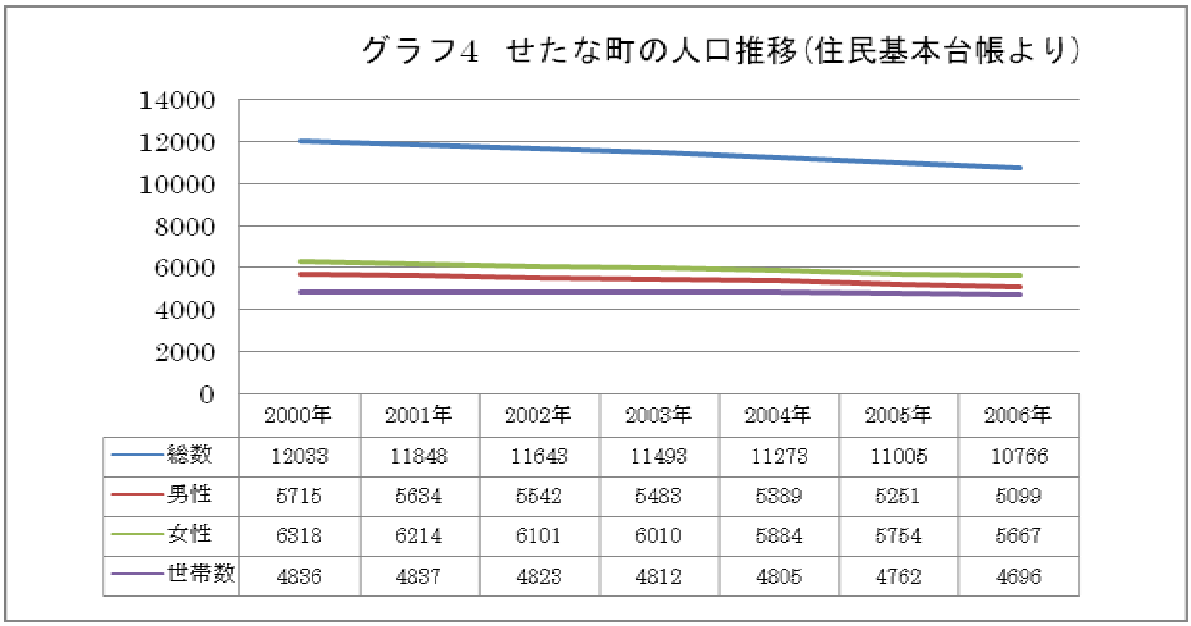
総人口のピークは昭和 30 年の 25552 人であり、平成 17 年の 10748 人からみると倍以上であった。各官公庁出先機旧国鉄北檜山駅を中心に発展した商店街は買い物環境の整備が進んでいなかったため、昭和 62 年の旧国鉄瀬棚線廃止によって北檜山駅という核を失い、著しく衰退した。その間、近隣町の大型スーパー、専門店等の相次ぐ開店により、消費購買力が流出し、地元商店街の衰退に拍車をかけている。平成 13 年には北檜山町市街地中央部に位置する渡島森林管理署旧東瀬棚事務所が閉鎖し町の空洞化が一層進行している。そこで、平成 15 年度より地元商業者等で構成する「北檜山町中心市街地活性化基本計画策定部会」で中心市街地の活性化についての検討が重ねられている。



	昭和２２年	昭和２５年	昭和３０年	昭和３５年	昭和４０年	昭和４５年	昭和５０年	昭和５５年	昭和６０年	平成２年	平成７年	平成１２年	平成１７年
総人口数	23124	24790	25552	25163	22996	19473	17869	16051	15144	13389	12446	11842	10748
男性人口数	11449	12472	12838	12617	11348	9375	8729	7724	7261	6404	5952	5608	5094
女性人口数	11675	12318	12714	12546	11648	10098	9140	8327	7883	6985	6494	6234	5654
総世帯数	3945	4169	4461	4815	4854	4794	4877	4872	4863	4682	4598	4595	4436

出典：北海道庁 HP

昭和 22 年から昭和 30 年にかけて総人口数が著しいのは、昭和 30 年 4 月 1 日に東瀬棚村と太櫓村が合併し、せたな町の前身である北檜山町ができ、次いで 7 月 20 日には久遠村と貝取澗村が合併し大成町ができたりと、相次ぐ市町村合併によって人口が増えたからではないかと思われる。昭和 30 年代以降は減少の一途を辿り、2006 年の人口増加率は－2.16%となっている。また、人口が減少しているにも関わらず世帯数が増加している原因は核家族化にあると推測される。



	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
総数	12033	11848	11643	11493	11273	11005	10766
男性	5715	5634	5542	5483	5389	5251	5099
女性	6318	6214	6101	6010	5884	5754	5667
世帯数	4836	4837	4823	4812	4805	4762	4696

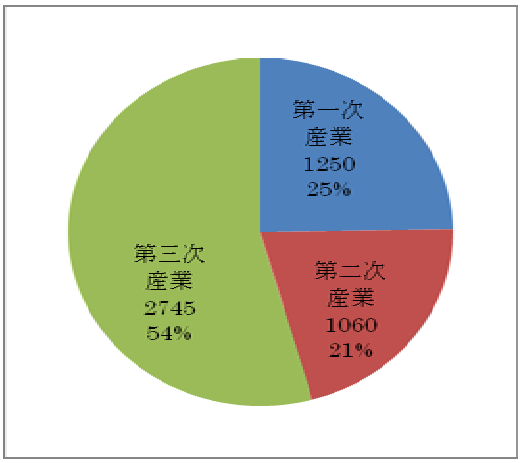
出典：北海道庁 HP

総人口はここ 6 年間で見ても 1276 人減少している。先ほど述べた核家族化による世帯数の増加はここでは当てはまらないようだ。やはり、地域の衰退が進むにつれて他地域への移住が増えているのだろうか。

2. 産業

2.1 産業別人口割合

グラフ 5　せたな町の産業別人口割合(人,%)



出典：北海道庁 HP

産業別人口割合では、第三次産業が最も多く、半数以上を占めている。この第三次産業の中でも、卸売・小売業、医療・福祉、サービス業が特に割合が高い。次いで第一次産業だが、ここでは農業が 7 割、漁業が 2 割強を占める。これはせたな町の基幹産業が漁業、農業、酪農などだからである。最後に第二次産業だが、ここでは建設業がおよそ 75%を占めている。これは町中を流れる後志利別川の治水事業に力を入れているからであろう。また、総面積 63855ha のうち林地面積 50175ha と、約 8 割を占めているにも関わらず、林業従事者は 2%しかいない。原因は後継者の不足だろう。このような状況の中で、せたな町は産業担い手育成条例を制定し、せたな町内において、新たに産業を営み、又は新たに産業に従事しようとする人（産業の担い手）に対し、一定の条件を満たした場合、奨励金等を交付している。

2.2 農業

せたな町の農業特産品は水稲・アスパラガス・男爵いも・ナチュラルチーズ・純米酒・メロン・ほうれん草・豆類・畜産などである。せたな町は有機農業に力を入れており、米・大葉などがＪＡＳ認定されている。稲作については、日本海に注ぐ幹川流路延長 80 キロメートル、流域面積 720 平方キロメートルの一級河川、水質日本一の後志利別川による肥沃な土地と温暖な気候により、道南地域を代表する穀倉地帯となっている。また、アイガモを水田に放って除草や害虫駆除を行うという合鴨農法を取り入れており、近海環境の保全、安全な食材の提供などを通して循環型の社会を目指すとともに、地酒など地元の名産品づくりにも役立っている。

表 1　せたな町の耕地利用

耕地面積	**5980ha**
田	**2540ha**
畑	**3430ha**
普通畑	**836ha**
樹園地	**8ha**
牧草地	**2590ha**
作付延べ面積	**5720ha**
耕地利用率	**95.70%**

出典：わがマチ・わがムラ HP

図 2　合鴨農法の様子

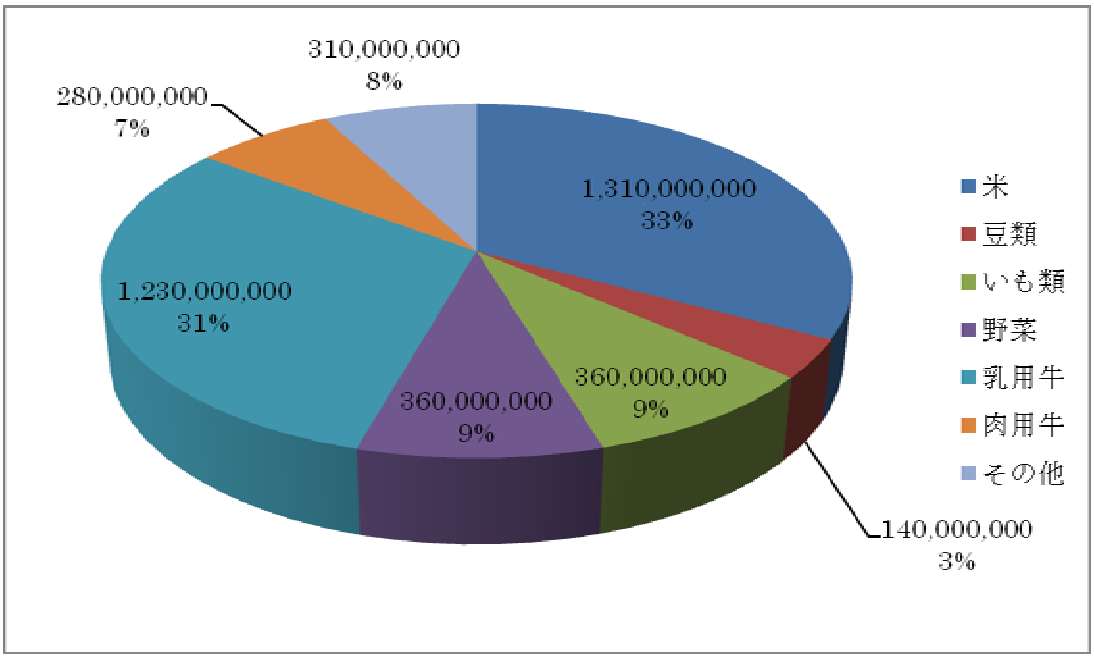
図 3　畜産業もさかん

表 2　せたな町の主な農産物の作付面積と収穫量

	作付面積(飼養戸数)	収穫量(飼養頭数)
水稲	1520ha	7810t
豆類	329ha	473t
飼料作物　牧草	2920ha	88700t
青刈りとうもろこし	99ha	4780t
馬鈴薯	195ha	6360t
ほうれん草	38ha	323t
乳用牛	65 戸	3110 頭
肉用牛	38 戸	3180 頭

出典：わがマチ・わがムラ HP

グラフ 6　せたな町の主な農産物の農業出産額

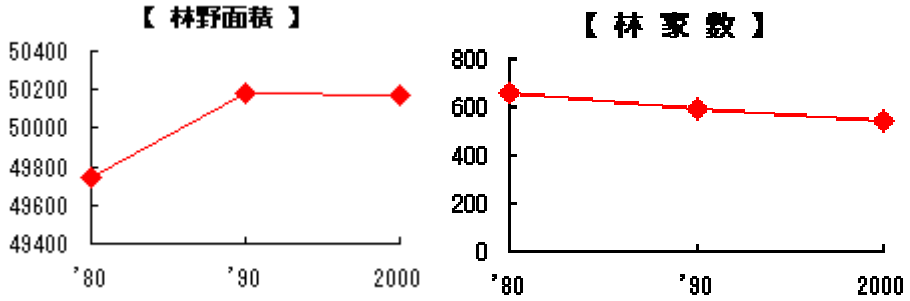


出典：わがマチ・わがムラ HP

2.3 林業

せたな町の林野面積は 50175ha(総面積の 78.6%)と、緑豊かな町である。そのうち国有林面積が 36025ha、民有林面積は 14150ha である。せたな町の林家数は 542 戸、これは総世帯数の 11.8%を占める。森林開発が進み林野面積が広がる中、林家数は減少してきている。第一次産業は一貫して後継者問題に苦しめられているようだ。また、兜野海岸林では災害に強い安全な国土づくり、狩場山地須築川源流部森林生態系保護地域では貴重な自然環境を有する森林の保全が行われている。

グラフ 7　近年のせたな町の林野面積と林家数の推移

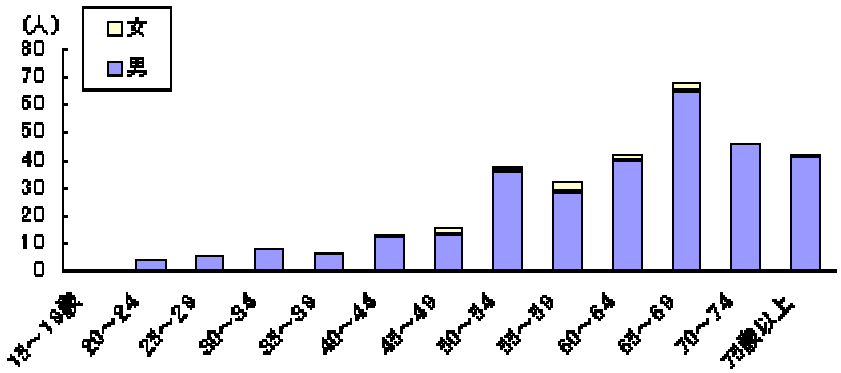


出典：わがマチ・わがムラ HP

2.4 漁業

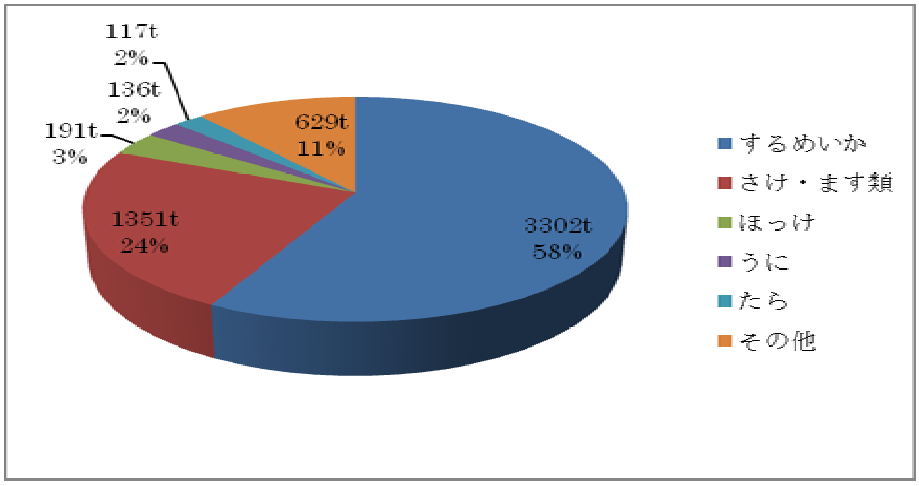
せたな町の主な水産物といえば、イカ・ホッケ・アワビ・カキ・ソフトだるまいか・ホタテなどが挙げられる。せたな町の漁業就業者数は男性 304 人、女性 14 人、計 318 人である。(平成 16 年度)　漁業世帯数は 284 世帯であり、平成 5 年には 400 世帯前後あったのが、著しい減少を見せている。

グラフ 8　性別・年齢別漁業就業者数



出典：わがマチ・わがムラ HP

グラフ 9　せたな町の主な水産物の収穫量



出典：わがマチ・わがムラ HP

3. 観光

3.1 茂津多岬灯台

茂津多岬灯台（もったみさきとうだい）は、北海道の渡島半島西側にある茂津多岬の突端に立つ白と黒に塗られた尖り屋根の大型灯台である。1937 年（昭和 12）4 月 11 日に初点灯し、当時は、標高（平均海面から灯火まで）日本一の灯台であったが、1951 年（昭和 26）に造られた山陰の余部埼灯台にわずかに抜かれてしまう。それを 2001 年（平成 13）8 月の改修にあたり、屋根の部分を尖らせることにより、平均海面から塔頂までの高さでは、余部埼灯台を抜いて一位に返り咲いたの。周辺は、狩場茂津多道立自然公園に指定されていて、岬から栄浜に至る海岸線は荒磯の奇岩の続く景観である。背後に狩場山南方海上には奥尻島を、また右手遠方に積丹半島を望むことができる。

図 4　茂津多岬

出典：コチラ　セタナ情報局

3.2 洋上発電所「風海鳥」

洋上風車「風海鳥（かざみどり）」とは、国内で初めて建設された本格的な洋上風力発電施設である。風車の羽を鳥のイメージに重ねて「風海鳥」と名づけられた。1998 年度に計画されて以来、6 年の歳月を経て、2004 年 4 月に本格稼動が開始された。瀬棚港東外防波堤の沖合い 700m に設置された 2 基の風車は、高さ 40.3m、翼の直径は 47m。出力は 1 基 600kW で、2 基合わせての年間発電量は約 4200MWh。これは一般家庭約 1000 世帯分の年間消費量に相当する。

洋上風車で発電した電力は全長約 1200m の海底ケーブルを使って岸まで送電される。このケーブルには直径 78mm の鉄線補強入りの架橋ポリエチレン被覆ケーブルを使用し、ブイ浮上方式で布設した後、水深 11m の海底砂中に埋設されている。基礎部分はアワビやウニのエサとなるコンブを養殖施設とするなど、漁業との協調の役割も果たしている。

図 5　風海鳥

出典：FUKIIKUMI_BLOG

＜出典＞

Wikipedia せたな町

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%9B%E3%81%9F%E3%81%AA%E7%94%BA

コチラ　セタナ情報局 http://www.setana.jp/data.html

わがまち・わがむら http://www.toukei.maff.go.jp/shityoson/map2/01-01/371/index.html

北海道庁 http://www.pref.hokkaido.lg.jp/

気象庁 http://www.jma.go.jp/jma/index.html